女性の中年期危機

「心の正午革命」後を女性はいかに生きるか

加地雄一

(東京成徳大学応用心理学部)

キーワード：中年期危機、女性、心の正午革命

Female Midlife Crisis: How women live after the psychic revolution of life's noon

Yuichi KAJI

(Faculty of Applied Psychology, Tokyo Seitoku Univ)

Key Words: Midlife crisis, Women, Psychic revolution of life's noon

目 的

人生後半の発達についてはじめて心理学的に着目した Jung (1931 / 1979) は、人間の生涯を毎日の太陽の運行に喩えた (Figure 1)。彼が特に重視したのが、正午十二時にあたる「人生の半ば」とその後の中年期である。人生の午前は「生の拡張」などが目標とされるが、正午をまたぎ午後になると、午前抱いた価値や理想が反転するという。この人生半ばの時期を彼は「心の正午革命」と呼んでいる。例として、教会の教区委員長をしていた信心深い男性が 45 歳を迎えたある時を境に、その後の人生を歓楽に費やしてしまった事例が紹介されている。

中年期の女性は、子どもの巣立ち、両親の老いや死、夫との向き合い等、対象関係が大きく変化する時期であり、自己の再定義を迫られる (岡本, 1999)。この時期の女性は家庭内・外における他者との関係性の中で様々な葛藤や矛盾を抱えることを維持しながらアイデンティティを再構成していくという。本研究では、中年期の女性が異なる状況や視点のあいだで葛藤や矛盾を維持したまま、どのように人生を生きているのか、事例を通して明らかにする。

Figure 1 Jung (1931 / 1979) の中年期論 (図式化は筆者による)

方 法

調査対象者 著者が指導した調査者 (50 代女性) の知人女性 2 名 (ともに 50 代) を対象にした。

調査手続き 静かな環境で行えるよう調査者の自宅、公民館で個別面接を行った。

調査内容 職業、社会的活動、家族・友人関係、現在の状況や関心、今後の予定についての質問項目をもとに半構造化面接を行った。

結 果

事例 1 夫、長男、次男、長女と同居。成長した子どもとの同居についてはこれでいいのかと思う一方、手を放すことができず葛藤がある。接客が中心の小売業でパート勤務を 10 年近く続けている。友人は学生時代の友人、社会人 (独身) 時代の友人、子育て時代の友人、地域の友人など、数が多く深い関係を築いている。老後のことを考えると趣味を通じた友人が欲しい。最近では自分の今後の生きる糧、生きる力について考える。それが仕事であるとは思えない。家族には振り回されずに自分のしたいことをしていきたい。近く、ものづくり教室に通う予定があり、それが一番の楽しみである。

事例 2 夫、長男と同居。長女、次女は結婚して近隣に住んでいる。子どもができて会社を辞めてからは専業主婦が続いている。テニスクールに週 2~3 回 (10 年)、太極拳に週 1 回 (5 年)、カウンセリング講座に週 1 回 (15 年) 通っており、平日はほぼ毎日出かけている。友人関係は夫が転勤族だったため各地に知り合いがいるが年賀状でのあいさつ程度である。カウンセリング講座の友人とは深い関係が続いている。娘二人が妊娠したが、自分が兄妹の末っ子で面倒見がよくなく、自分の子育てが精いっぱいだったことから、娘の里帰り出産に対しては気が重い。自分では身体面、体調面とも良好であると感じている。自分のこれから先に不安はないが、子どものことで不安になることはある。娘の結婚式で聞いた讃美歌の調べが心地よかったので、いつか教会に行ってみたい。

考 察

2 つの事例とも現在は子育てを終えて活発に活動しており、家族よりは自己の活動を充実させることに重点が置かれ、今後についてもできる限り家族に煩わされず、自分のやりたいことを実行していくことを望んでいる。しかし、関心や行動が自身の活動へと移行する一方で、直接的な世話行動には現れない形での親子の関係性は維持されている。

このように中年期に入り家庭内で葛藤や矛盾を抱えたまま関係性を維持することができるのは、家庭外での多様な関係性の維持が動力源となっているからであると考えられる。逆 (家庭内での関係維持が家庭外での関係維持の動力源になっていること) もまた真なりである可能性も考えられ、家庭内・外の関係性が相補的に支え合っていることも示唆される。

引用文献

- Jung, C. G. (1931). Die Lebenswende, in *Seelenprobleme der Gegenwart* (Psychologische Abhandlungen, III; Zürich). (ユング, C. G. 鎌田輝夫 (訳) (1979). 人生の転換期 『現代思想』VOL. 7-5, 青土社)
- 岡本祐子 (編著) (1999). 女性の生涯発達とアイデンティティ ミネルヴァ書房